

静岡県 平成 25 年度報告

支援拠点機関 (電話)	賀茂・熱海伊東圏域	オリブ ((0558)43-3131)		
	駿東田方圏域	障害者生活支援センターなかいずりハ ((0558)83-2195)		
	富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545)35-5589)		
	静岡圏域	サポートセンターコンパス北斗 ((054)278-7828)		
	志太榛原圏域	相談支援事業所暁 ((054)620-9202)		
	中東遠・浜松圏域	ナルド ((053)437-4609)		
	県全体	聖隷三方原病院 ((053)436-1251) 高次脳機能障害サポートネットしずおか ((054)622-7405)		
支援コーディネーター数		18 名		
支援拠点機関相談数		来所 978 件	訪問 874 件	連絡等 2,400 件
支援拠点機関連携数		来所 112 件	訪問 247 件	連絡等 803 件
支援拠点機関 活動実績		連絡会・協議会	研修会・講習会	ほか(ケース会議、勉強会・家族交流会等)
	主催	9 回	7 回	106 回
	講師等協力	25 回	26 回	152 回
その他活動	冊子、ウェブサ イド、執筆ほか	・ポスター「高次脳機能障害をご存じですか？」 ・リーフレット「高次脳機能障害者への理解と支援のために」 ・ちらし「高次脳機能障害を知っていますか」 ほか		

25 年度の実績(講習会の開催等)

< 連絡協議会 >

- ・高次脳機能障害地域基盤整備事業検討専門家会議  
平成 25 年 7 月 8 日(月) 30 人参加  
平成 26 年 3 月 5 日(水) 34 人参加

< 医療等総合相談 >

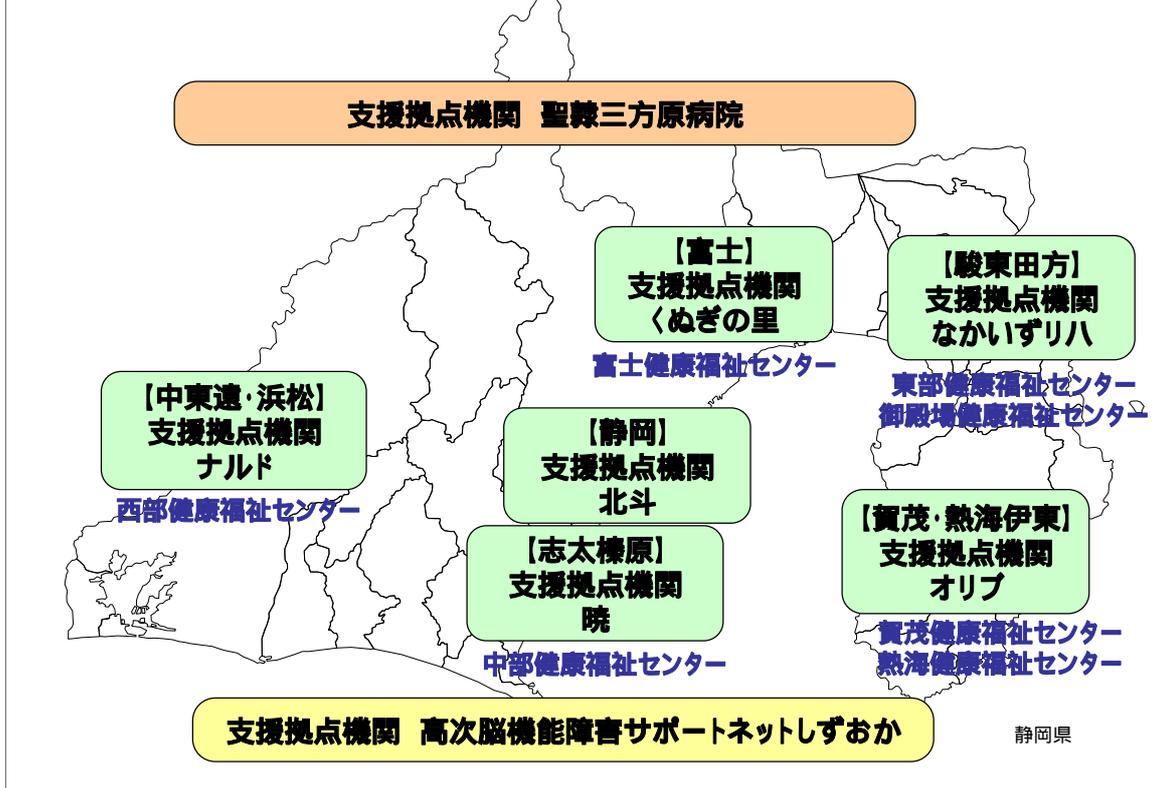
- ・全健康福祉センター・保健所(7か所)において、延 18 回 利用者 延 40 人

< 支援従事者研修 >

- ・県及び県健康福祉センター・保健所による研修 延 6 回 参加者 延 452 人  
(対象:医療従事者、福祉関係者、就労支援関係者、行政関係者等)
- ・拠点病院等による研修 延 2 回 参加者 延 135 人
- ・支援コーディネーター連絡会(事例検討・情報共有等) 3 回 出席者 延 52 人  
(対象:支援拠点機関の支援コーディネーター)

\*今年度は、支援コーディネーターの研修会を上記支援コーディネーター連絡会に併せて実施した。

## 平成25年度支援拠点機関と県健康福祉センター(保健所)



### 今後の課題

- 1 医療機関での障害の見落としの予防  
医療機関での障害の見落としをなくし、受傷後早期の対応及び訓練が行われるよう、医療従事者の障害理解をすすめる。
- 2 支援従事者、一般県民の障害理解のための継続的な啓発  
支援従事者、当事者家族、一般県民に対する啓発や研修等を継続し、障害の理解を促進し適切な支援に繋げる。
- 3 関係機関による地域支援ネットワークづくり  
診断・評価に基づき連続したケアが身近な地域でできるよう、支援拠点機関を中心に据えた地域支援ネットワークづくりをすすめる。
- 4 支援の地域間格差の解消にむけた取り組み  
支援従事者の研修や情報交換等を健康福祉センター単位で実施する。支援コーディネーターの研修を事例検討や外来見学等を含めて充実して実施することで、支援コーディネーターの資質の向上を図ることにより支援の地域間格差の解消をめざす。
- 5 新しい動きの効果的な活用  
高次脳機能障害に特化した障害者自立支援法による就労移行支援・自立訓練(生活訓練)事業所の開設や高次脳機能障害者の就労継続を支援するナイトサロンの開催など、新たな動きを限定的な利用にとどまらせることなく、効果的な活用をすすめる。

## 岐阜県 平成 25 年度報告

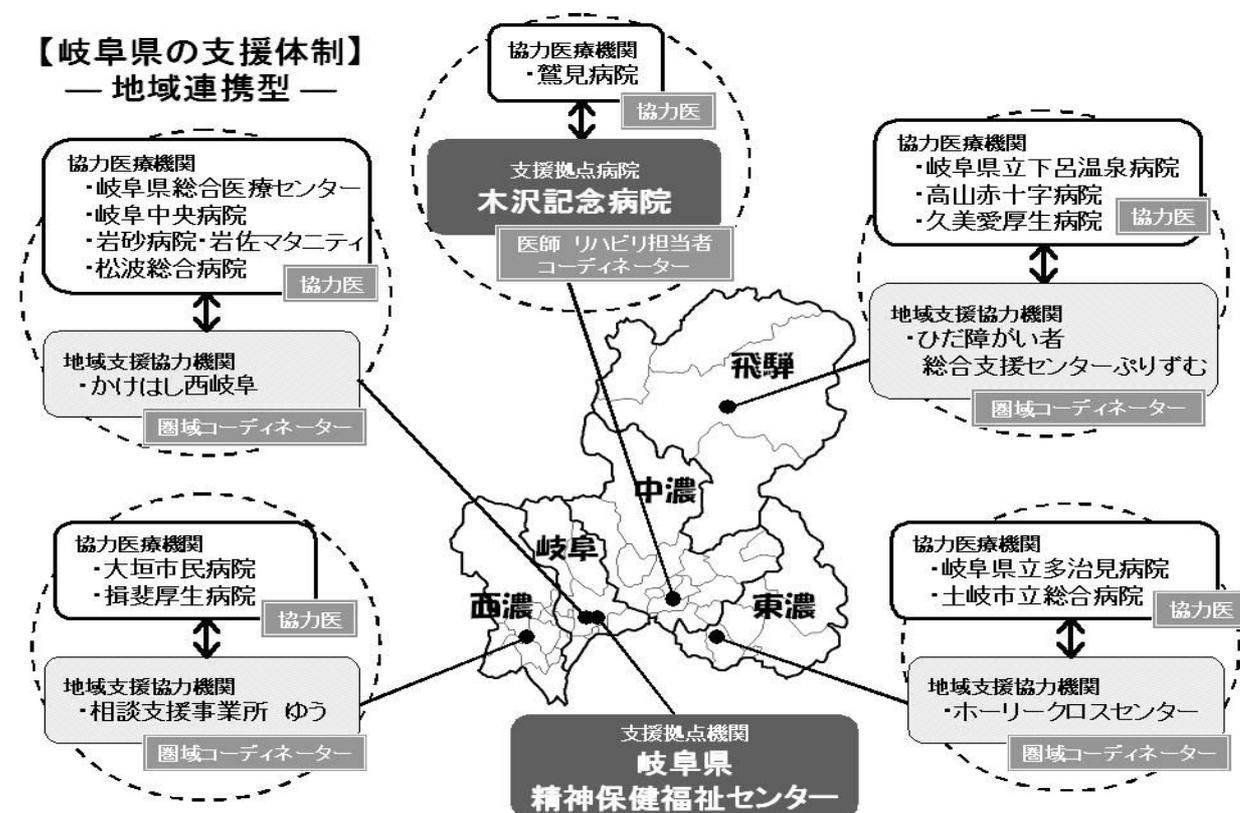
### 1. 支援体制

\* 支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター

支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院

\* 支援コーディネーター：1名 支援拠点病院に配置している。

\* 支援体制：圏域ごとの支援体制の整備を推進しており、県として、協力医療機関 12ヶ所と地域支援協力機関 4ヶ所を指定している。地域支援協力機関に圏域コーディネーターが所属している。



### 2. 相談件数等の実績

- (1) 支援拠点機関相談数；来所 77 件 訪問 24 件 連絡等 50 件
- (2) 支援拠点機関連携数；来所 0 件 訪問 0 件 連絡等 116 件
- (3) 連絡会・協議会；主催 2 回 講師等協力 5 回
- (4) 研修会・講習会；主催 4 回 講師等協力 2 回
- (5) ケース会議・勉強会等；主催 5 回

### 3. 事業内容

- (1) 支援体制の整備

圏域ごとに指定した協力医療機関・地域支援協力機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行

う場として、平成 24 年度に協力医療機関等ネットワーク会議を設置し、今年度も継続した。今年度は全体会議として全 5 圏域合同で行った。第 1 回は平成 25 年 6 月 4 日に開催し、福祉制度等の説明や、生活訓練や MTBI についての講習を行った。第 2 回は平成 26 年 2 月 4 日に開催し、地域支援協力機関と協力医療機関が関わったケースの報告を行い、圏域コーディネーターや協力医が事例発表者となって、現在の課題や対応法を話し合った。

支援対策推進会議は県保健医療課が事務局を担当し、平成 26 年 2 月 19 日に開催した。ここでは、協力医療機関の受診や、各圏域内の支援機関同士の連携を促進するために、会議にはできる限り担当医に参加してもらい、医師に興味を持ってもらいやすい学術的な内容を取り入れる・全体会議後に圏域ごとに集まる時間を設けるなどの具体的な案も出された。

## (2) 相談支援

支援拠点機関のコーディネーターとしては、平成 24 年度までと同様に支援拠点機関 2 ヶ所と家族会運営の通所施設で相談支援を実施した。拠点機関での来所相談件数、関連機関との連携・連絡件数は減少した。

また、平成 22～24 年度に実施した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業が終了し、今年度は圏域コーディネーターが相談支援を積極的に行うようにした。先に挙げた拠点機関の相談件数以外に、圏域コーディネーターが受けた相談件数は、下の表に示すとおりであった。各圏域の件数を平成 24 年度と比べてみると、新規相談件数は微増か横ばい、延べ相談件数は大幅に増加していた。拠点機関のコーディネーターの関与なく、圏域コーディネーターに直接相談されるケースも出てきた。

これらの相談件数の変化から、これまで拠点機関で対応していたケースが居住圏域で相談されるようになってきていることが推測される。圏域コーディネーターは地域の福祉施設等の情報をよく把握しており、受診や利用施設への同行や訪問もしやすいことから、拠点機関のコーディネーターより、より適切で丁寧な支援ができると期待される。

その他、コーディネーター同士が継続的に学習・情報共有を行うために、圏域支援コーディネーター会議を設け、3 ヶ月に 1 回、交代でケースを挙げて意見交換している。

【圏域支援コーディネーターへの相談件数】

	新規相談件数	延べ相談件数
岐 阜	36	74
西 濃	7	210
東 濃	6	120
飛 騨	7	983
合 計	56	1387

## (3) 普及啓発

平成 25 年 9 月・11 月の研修会は、行政や福祉施設の職員向けに実施した。講師の講演以外に、会場地域の圏域コーディネーターが実際の相談ケースを紹介した。また、市町村等にポスターを配布して掲示を依頼した。これにより、行政窓口から紹介されて相談につながるケースが出てきている。その他、岐阜県精神保健福祉センターホームページにはリーフレットや講演会情報を掲載し、広報した。

【平成 25 年度開催の研修会】

高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜西濃地域＞ H25.9.20	主催：精神保健福祉センター 場所：大垣市情報工房 参加者数：35 名	講師・内容： 岐阜医療科学大学 阿部順子氏 『高次脳機能障がいの理解と対応』
高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜東濃地域＞ H25.11.29	主催：精神保健福祉センター 場所：多治見市文化会館 参加者数：31 名	NHK厚生文化事業団制作のDVD視聴 圏域コーディネーターからの事例報告 *同じ内容で2回開催
岐阜 高次脳機能障がい フォーラム H26.1.25	主催 第1部：精神保健福祉センター 第2部：損害保険協会助成 場所：各務原市産業文化センター 参加者数：176 名 講師・内容： 第1部：木沢記念病院 池戸友梨氏・田本織江氏 『リハビリスタッフが考える高次脳リハ』 岐阜医療科学大学 阿部順子氏 『高次脳機能障害者の生活訓練』 第2部：東京慈恵会医科大学附属第三病院 渡邊 修氏 『高次脳機能障害のリハビリテーション』 NPO 法人脳外傷友の会みずほ前副理事長 尾山芳子氏 『自立への支援』	

#### 4. 研究発表

##### (1)学会発表

1. Shinoda J, Itou K, Asano Y, Miwa K, Aki T, Yonezawa S: Differences in brain metabolism impairments between chronic mild/moderate TBI patients with and without visible brain lesions on MRI. The 81<sup>st</sup> Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (AANS), New Orleans, 2013.4.28-5.1
2. Shinoda J, Asano Y, Miwa K, Yonezawa S, Nomura Y, Itou K: Chronic radiological abnormalities in patients with mild traumatic brain injury. The 10<sup>th</sup> World Congress on Brain Injury of the International Brain Injury Association. San Francisco, 2014.3.19-22
3. Matsumoto J, Yonezawa S, Nishiyama N, Okumura R, Fukuyama S, Kanematsu Y, Nomura Y, Asano Y, Shinoda J: Acupuncture treatment increases motor evoked potentials induced by using transcranial magnetic stimulation in patients with chronic disorder of consciousness following severe traumatic brain injury The 10<sup>th</sup> World Congress on Brain Injury of the International Brain Injury Association. San Francisco, 2014.3.19-22
4. 山田裕一, 奥村竜司, 福山誠介, 松本 淳, 浅野好孝, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者への鍼治療と99Tc-ECD脳血流SPECTの定量値との関係. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
5. 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳: 交通事故による慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳損傷部位と高次脳機能障害. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
6. 澤村彰吾, 大坪綾菜, 榎林 優, 森 美香, 浅野好孝, 篠田 淳: 表出方法の工夫により、コミュニケーションが拡大した頭部外傷の一症例. 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
7. 松本 淳, 米澤慎悟, 野村悠一, 西山紀郎, 兼松由香里, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後

遷延性意識障害患者の筋緊張亢進に対する鍼治療 - 電気生理学的検討 - . 第 22 回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27

8. 松本 淳, 米澤慎悟, 西山紀郎, 兼松由香里, 野村悠一, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後遷延性意識障害患者に対する鍼治療 - 電気生理学的評価を行った2症例 - . 第3回日本中医学会学術総会. 東京, 2013.9.14-15
9. 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳: 慢性期外傷性脳損傷に対するFDG-PETによる評価. 第72回日本脳神経外科学会総会. 横浜, 2013.10.16-18
10. 浅野好孝, 伊東慶一, 野村悠一, 米澤慎悟, 三輪和弘, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: 鞭打ち損傷による軽度外傷性脳損傷の検討. 第72回日本脳神経外科学会総会. 横浜, 2013.10.16-18
11. 河村章史, 伊東慶一, 篠田 淳: 慢性期軽度外傷性脳損傷患者の脳血流低下と神経心理学検査成績の関連 - SPECT のための統計解析処理ソフトウェアを用いて - . 第5回日本ニューロリハビリテーション学会. 東京, 2014.2.15

## (2)講演

1. 篠田 淳 (指定講演・プレナリーセッション): 高次脳機能障害を引き起こす外傷性脳損傷の画像評価. 第33回日本脳神経外科コンgres総会. 大阪市, 2013.5.10-12
2. 篠田 淳 (特別講演): 外傷性脳損傷慢性期の障害 - 遷延性意識障害と高次脳機能障害 - . 平成25年交通事故被害者家族ネットワーク千葉県支援集会. 千葉市, 2013.5.25
3. 篠田 淳 (教育講演): 意識と意識障害の基礎知識. 第4回看護学生のためのやさしい脳神経看護講座. 美濃加茂市, 2013.6.29
4. 篠田 淳 (指定講演・シンポジウム): 慢性期軽度意識障害評価スケール開発へのアプローチ - 病態生理学からのアプローチ - . 第22回日本意識障害学会. 秋田市, 2013.7.26-27
5. 浅野好孝 (特別講演) 高次脳機能障害と神経画像. 第16回Gifu Nuclear Technology Club. 岐阜市, 2013.9.4
6. 篠田 淳 (教育講演): リハに役立つ画像診断法 - 高次脳機能障害に関係する頭部外傷の慢性期の画像診断 - . 第36回静岡リハビリテーション医学会(日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会専門医・認定医臨床医生涯教育研修会). 静岡市, 2013.9.14
7. 篠田 淳 (特別講演): 高次脳機能障害の診療と岐阜県の状況について. 飛騨保健所生活習慣病医療連携推進事業. 第5回地域脳卒中連携研修会. 高山市, 2013.9.19
8. 篠田 淳 (教育講演): 交通事故による高次脳機能障害. 脳外傷友の会みずほ・高次脳機能障害者家族を支援する会「サークル虹」平成25年度高次脳機能障害支援研修会. 刈谷市, 2014.2.23

## (3)書籍・雑誌 別に記載

## 5. 今後の課題

### (1)支援ネットワークの活動の充実

協力医療機関と圏域コーディネーターの連携がまだスムーズではない。例えば、家族のサポートが得にくいケースや在宅生活で困りそうなケースは、退院後の生活の準備・見通しが整った状態で退院を迎えられるよう、退院前に医療機関から圏域コーディネーターに連絡されるのがよいが、現状ではそういった連絡はあまりされていない。協力医療機関それぞれ院内の仕組み・役割分担が異なるため、それぞれの医療機関に適した圏域コーディネーターへのルートを作る必要があるのではないかと。

### (2)相談支援機能の補充

圏域コーディネーターとその所属である地域支援協力機関にはそれぞれの特色があり、可能な支援と困難な支援がある。現在は各コーディネーターが県内外の研修会や圏域コーディネーター会議を通してスキルを高めているが、今後はその機関で足りない機能をどう補うかが課題である。また、圏域コーディネーター全員が兼務の状態であり、当事者や関係機関からの連絡にすぐに対応できないことも多い。相談件数が増えるにつれ、地域支援協力機関の圏域コーディネーター以外の職員にも事業や障害のことをより理解してもらい、協力してもらう必要が生じている。

(3)精神症状や行動障害のあるケースについての行政や精神科医療との連携，作業訓練や日中活動の場の拡充

圏域コーディネーターは、精神症状があるケースや利用する通所施設を探す必要があるケースを通じて、地域の行政担当課・精神科医療機関・通所施設と連絡をとる機会が出てきている。ケースの積み重ねにより受け入れ機関(連携機関)を増やしていくとともに、実際に受け入れている施設の職員を講師に招いて研修会を開き、普及啓発を図れるとよいか。

## 愛知県 平成 25 年度報告

### 1. 支援体制

#### (1) 支援拠点機関

- ・ 名古屋市総合リハビリテーションセンター 電話(052)835 3811
- ・ 支援コーディネーター 3名

#### (2) 概要

名古屋市総合リハビリテーションセンター(以下、名古屋リハ)の特徴としては、『総合拠点方式』と『開放型循環システム』があげられる。これは高次脳機能障害支援モデル事業開始時から機能しており、モデル事業、その後の高次脳機能障害支援普及事業を通して、より高次脳機能障害者に有効なものとするため、ブラッシュアップを図ってきた。

##### 総合拠点方式

医療部門(付属病院)と福祉部門(障害者総合支援法施設)があり、高次脳機能障害者の安定した生活・社会参加をめざし、受診・評価から訓練、支援まで一貫したサービスを行える機能を有している。高次脳機能障害者にとっては、適切な時期からの連続した訓練・支援の実施が可能となっている。

##### 開放型循環システム

社会復帰後に不適應などを起こした人への再訓練・支援を可能とするシステム。とくに脳外傷者は、環境に左右されやすいという特徴があり、これに対して医療部門を有し、受診を継続することで状況を把握しやすいことは有効である。

- ・ 就労しても継続できなかった人の再訓練・支援(失敗原因の総括が不可欠)が可能
- ・ 復学した人が就労する際に職能訓練を実施できる。とくに軽症の脳外傷者は遂行機能が必要な業務を求められると混乱を生じる傾向が高いため、職業生活をシミュレーションできる職能訓練は有効である
- ・ 福祉就労からのステップアップをめざす人、生活の立て直しを図る人などの再訓練・支援なども可能である

### 2. 数値実績

#### (1) 名古屋リハ附属病院 脳損傷者新患数

計	脳外傷	低酸素	脳炎	くも膜下	脳出血	脳梗塞	脳腫瘍	その他
312名	66	8	6	23	89	111	6	3

#### (2) 拠点機関実績

専門的相談支援として、マネジメント(ニーズや高次脳機能障害を踏まえた必用な訓練や支援の方向性を具体的に提示し、その後のモニタリングに基づいたフォロー)や関係機関との調整を実施している。

##### 高次脳支援課(支援コーディネーター)相談数

実数	延べ		
	来所	訪問	連絡等
633名(うち新患87名)	1483名	74名	555名

<相談内訳 - 分野別 / 延べ人数比>

単位 = 上段 : 人 / 下

段: %

計	医療	訓練	就業	就学	施設	在宅	情報	その他
2 1 1 3	2 8 3	2 7 3	4 5 2	9 1	1 0 6	5 0 3	3 4 0	6 5
100.0	13.4	12.9	21.4	4.3	5.0	23.8	16.1	3.1

25年度は医療（受診相談等）、訓練（内容、方向）、就業相談（働き方等）、情報（精神手帳や年金の手続き）、在宅（生活の仕方等）の割合が高位。相談のみなく、実際の支援も相当数にのぼるが、この数年は同様の傾向。

高次脳支援課（支援コーディネーター）外部機関連携数

実数	延べ		
	来所	訪問	連絡等
1 8 0 件	1 0 6 件	9 6 件	3 3 3 件

<連携・支援機関内訳 / 延べ件数比>

単位 = 上段 : 件 / 下

段: %

計	支援C/相談機関	施設	医療機関	教育関係	職場関係	家族会	その他
5 3 5	1 8 1	9 4	8 4	1 5	3 9	1 0	1 1 2
100.0	33.6	17.6	15.7	2.8	7.3	1.9	20.9

25年度は『相談支援の制度化』の関係から、相談機関との連携割合が増加（前年度26.8%）施設や医療機関は高位、職場関係は就労支援課が主に担当、家族会は機能の関係でほとんどが相談機関や施設にカウント

(3) 障害者総合支援法による訓練

生活支援課（“生活”訓練）の利用実績

単

位: 人

入所者			退所者	身障手帳未所持者定員 50名
計(うち身障手帳未所持)	うちTBI	うちCVA		
1 3 2 ( 3 2 )	3 1	8 1	9 0	11(生活訓練) + 10(就労移行支援)

注) 生活支援課の身体障害者手帳未所持者の入所はH14年度から開始

現在は障害者総合福祉法の施設入所支援50名、自立訓練(機能訓練、生活訓練)で実施。生活訓練は高次脳機能障害に特化している。通所も受け入れている。

就労支援課（職能訓練）の実績

単

位: 人

利用者	退所者
うち身障手帳未所持 / 計	うち身障手帳未所持 / 計 (うち一般就労)
6 3 / 1 0 2	3 8 / 6 5 ( 2 8 / 4 3 )

注) 就労移行支援100%で実施

### 3. 普及・啓発

(1) 主な連絡会・研修会、講師等の実績

・連絡会・協議会	主催	3回	協力(講師等)	3回
・研修会・講習会	主催	5回	協力(講師等)	29回
・ケース会議	主催	48回	協力	36回
・勉強会等	主催	9回	協力(家族会・交流会)	2回

(2) 連絡会・研修会の主催

愛知県高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会

H25.09.20 第1回委員会(通算14回)

H26.03.19 第2回委員会(通算15回)

厚生労働科学研究東海ブロック連絡協議会(主催県:三重 事務局:名古屋リハ)

H26.02.02 於:四日市市総合福祉会館(四日市市)

- ・東海4県(静岡、岐阜、三重、愛知)の実績報告、課題、方針
- ・東海4県の高次脳機能障がい者の就労支援について

(3) 講習会・研修会の主催

H25.11.02 於:鯉城ホール(名古屋市) 参加:248名

- ・第1部 高次脳機能障害者の支援について~家族会の立ち上げから現在まで  
講演:大橋正洋氏(神奈川リハ病院リハ科医師)
- ・第2部 当事者家族による体験談  
座長:阿部順子氏 尾山芳子氏(元NPO法人みずほ副理事長) 岡島友子氏(ヘルパー)

(4) 研修会講師 (地域無記名=愛知県内、担当無記名=支援コーディネーター担当)

行政関係

05.15(水)名古屋市障害福祉事務担当者会議

06.26(水)豊田市高次脳家族相談会

06.26(水)国リハ高次脳機能障害関係職員研修

07.31(水)愛知県相談支援従事者実務者研修

08.29(木)圏域会議(あま市)

09.05(木)圏域会議(西三河南部東)

09.09(月)圏域会議(西三河南部西)

11.20(水)岡崎保健所家族相談会

12.13(金)大府市福祉・教育勉強会

12.25(水)豊田市関係機関(介護保険)向け研修会

01.19(日)医療機関と連携した精神障害者の就労支援モデル事業~高次脳機能障害の就労支援(厚労省委託/東京)/自立支援部

医療関係

06.17(月)愛知県看護協会講習会/医師、看護師

08.24(土)ナイチンゲールスピリット協会講演会(大阪)/医師

10.12(土)沖繩リハ/看護師

03.09(日)ナイチンゲールスピリット協会講演会/医師

03.13(木)中央看護専門学校/医師

高次脳関連施設関係

04.21(日)豊橋笑い太鼓家族勉強会/医師

06.09(日)サポートセンター笑い太鼓家族勉強会/医師

07.27(土)豊橋笑い太鼓家族勉強会/医師

08.31(土)ABIA相談員研修

09.07(土)サポートセンター笑い太鼓家族勉強会/心理士、医師

09.21(土)ABIA家族勉強会(豊橋)

11.24(日)ABIA家族勉強会(尾張旭)

12.07(土)ABIA家族勉強会(大治町)

12.08(日)笑い太鼓勉強会(豊橋)/医師

01.11(土)サポートセンター笑い太鼓勉強会/医師、看護師

01.19(日)ABIA家族勉強会(江南)

02.15(土)ABIA家族勉強会(名古屋)

02.15(土) 笑い太鼓勉強会(豊橋) / 医師、看護師

ほか

04.25(木) 名古屋市中川区自立支援協議会

10.16(水) 愛知産業保健推進センター一般研修

10.17(木) H25年度第4回 JC 支援持病推進協議会～高次脳機能障害の JC 支援(岐阜) / 自立支援部

11.26(火) 愛知産業保健推進センター一般研修

01.28(火) 愛知県 SW 協会尾張北部第一ブロック研修会

(5) その他

高次脳機能障害関連施設連絡会(毎月第2水曜日開催) = 事例検討中心

- ・参加: ワークハウスみかんやま、笑い太鼓豊橋、笑い太鼓岡崎、サポートセンター笑い太鼓

名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会 参加案内は毎年対象を検討

- ・4回実施(25年度は県内病院関係) 参加: 151名

実施日: 8.07(水) 11.27(水) 1.29(水) 訓練・支援コースのみ 2.26(水) 医療コースのみ

内容: 午前 名古屋リハのシステム、医学的概説、心理的概説

午後(選択) 訓練コース(生活訓練、職能訓練)

医療コース(病棟対応、ST 訓練、OT 訓練)

ABIA 関係施設訓練委託(前年度の名古屋リハ受診者数に基づく)

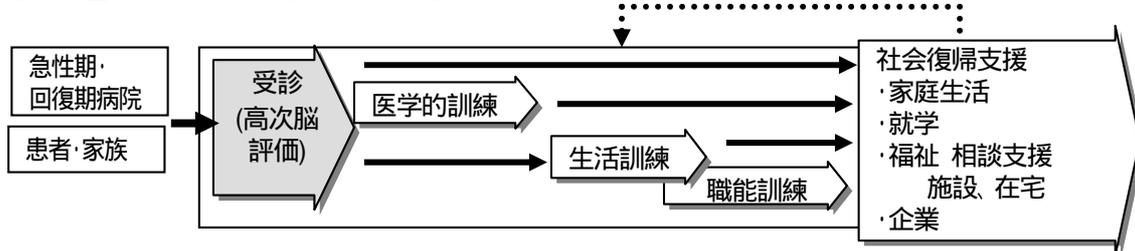
- ・生活訓練、職能訓練、在宅訓練などに該当する訓練を委託
- ・委託人数 = ワークハウスみかんやま 35名、笑い太鼓豊橋 25名、笑い太鼓岡崎 6名、株式会社笑い太鼓 40名

4. ほか

- ・名古屋リハリーフレット英訳版の発行(前年度科研費)
- ・高次脳機能障害児の冊子の発行(前年度作成)
- ・ほか刊行物 = 研究成果の刊行に関する一覧に記載

26年度に向けて

【名古屋リハの訓練・支援システム】



- ・名古屋リハの特徴 = 医療にとどまることなく、福祉制度による訓練、社会復帰支援に至るまでのシステム(提供サービス機能)を有している
- ・名古屋リハの対象者 = このシステムを利用できる人(ニーズ、後遺症の程度、年齢など)

・システムを利用しきれない人は、第1支援層(後述)の施設等を利用(名古屋リハと補完関係)

(1) 現状

継続的支援が必要な高次脳機能障害者の累積的増加

高次脳支援課(来所・訪問)相談数(延べ)

H18年度 793名 H25年度 1557名

とくにTBIは環境の影響を受けやすいため、社会復帰支援の部分での継続確認・フォローは欠かせない。

高次脳支援課 脳外傷者対応数(実人数)

H25年度: 633名のうち392名(62%)

名古屋リハ高次脳支援課だけでは対応できない数に増加

(2) 課題

名古屋リハの受診に至るまで

相談数の増加

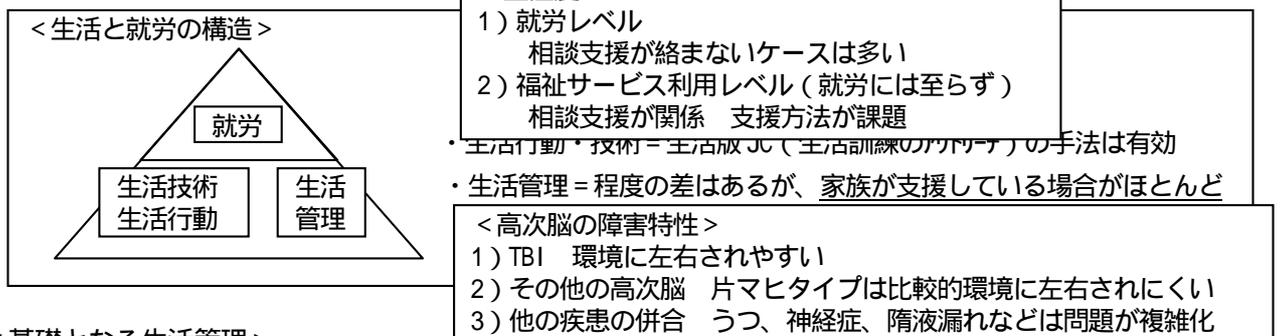
- ・患者の多様化=MTBI、脳脊髄液減少症との合併、精神症状の影響の程度など、相談レベルでは判断に迷うケース
- ・診断書のみへの依頼 他病院や支援機関等からの障害者手帳、障害年金等の関係。最近では弁護士から後遺障害診断書のみへの依頼も(高次脳関係の診断書記載数は年間300件以上) 診断書目的の受診患者もいるが、支援の継続、支援の手遅れ防止にもつながっている 地域の医療機関で診断書記載はまだ限界。医療関係者に対して研修やケースを通して周知を図っている。

高次脳が周知される一方、“行政的”な診断基準に該当しない相談も増加。支援拠点機関として、電話相談の判断は難しく、面談で確認させてもらう場合も多い

相談のみで受診つながらず=年間100名以上

名古屋リハ訓練終了後

支援について



<基礎となる生活管理>

- ・一般就労している高次脳機能障害者は、福祉とは関係していない人も多い。そのため、家族の高齢化などで単身状態になっても、福祉(支援)の介入がスムーズにいかず、生活の崩れ 就労の崩れにつながるケースも増えている

<名古屋リハ就労支援課退所後、長期を経たケース>

- ・同課は制度上、就労移行支援(フォローの限界有)。とくにTBIは定着支援が欠かせない。そのため、職場内の支援者、継続支援ができる機関との連携が重要

コーディネーターの就業相談(面談+訪問)		
	述べ件数	割合
就労相談	356件	29.0%
その他相談	971件	71.0%

(3) 今後に向けて

地域の支援力の向上

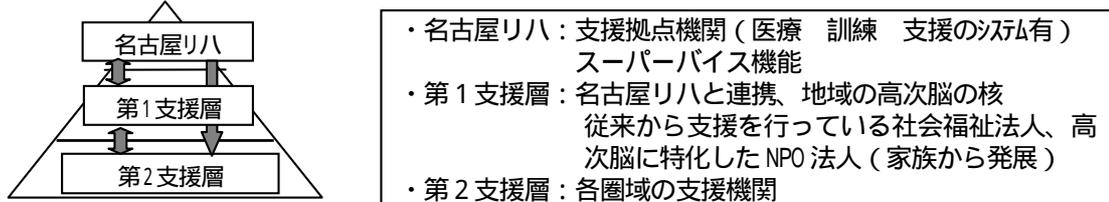
・就労支援課対応以外(在職中など)  
H25年4月~12月

- ・名古屋リハの累積的患者増に伴い、社会復帰支援部分として圏域で支援体制の確立が必要  
24年度から名古屋リハ内に『地域支援システム検討委員会』を設置。支援のあり方について検討を開始した

< 新たな展開 >

愛知県障害福祉計画に基づいた圏域会議(11圏域/除名古屋市)における高次脳機能障害の周知 愛知県健康福祉部長名で通知。24、25年度で完了

愛知県の高次脳機能障害者の支援体制



重点圏域（第2支援層 第1支援層へ）での研修

- ・尾張西部圏域 = 24年度に研修会3回
  - ・知多圏域（半田地域） = 24年度に研修会5回
  - ・その他 = 大府、東海市など
- これまでの経緯から名古屋リハとの密な連携・支援体制が可能と考えられたため。第2支援層から第1支援層に近づき、今年度は数ケースでの確な支援を実施している

『相談支援の充実』への対応 = H24年度からの制度改革に伴い、相談支援センターの計画策定時、高次脳の難しさから問題が浮き彫りに

名古屋リハ高次脳支援課の外部機関連携・支援実績の内訳の“相談機関との割合”の増加  
実際のケースを通じた助言等による高次脳理解促進や信頼関係の確立に有効（生活版JCの手法の活用も視野に）

名古屋市は26年度から基幹支援センター体制になるため、いっそう注力の方針  
質（専門的な相談・支援）とシステムの双方が求められ、地域の支援力の向上に有効

名古屋リハの機能の拡大

- ・26年に瑞穂区障害者基幹相談支援センター、地域活動支援センターつきみがおかを開設
- ・24年度には障害者就労支援センターめいりはを開設している

< 従来から実施 >

高次脳機能障害関連施設連絡会（毎月1回開催）

- ・高次脳関連施設への支援依頼ケースの確認や事例検討を通し、支援力や連携の強化をめざす

名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会

- ・県内関連機関への高次脳、名古屋リハの訓練・支援内容の研修。毎年対象を絞って実施して

(4) 啓発活動関係

- ・脳外傷リハビリテーション講習会の開催、研修会講師など
- ・名古屋リハリーフレットの改定、HPの更新など

(5) ABIA 関係

- ・ 愛知県高次脳機能障害者社会復帰促進事業の実施
- ・ NPO 法人みずほ、NPO 法人笑い太鼓の各種研修会の継続的な開催による高次脳の周知
- ・ 名古屋リハとの連携による地域での相談体制や訓練・支援機能の強化
- ・ ヘルパー事業所（一般社団法人高次脳機能障害ネットワーク）の開設

## 三重県 平成25年度報告

### 1. 三重県高次脳機能障がい者生活支援事業の概要

<事業実施期間>

「三重県高次脳機能障がい者生活支援事業」平成25年4月1日～平成26年3月31日

<実施主体>

三重県・三重県身体障害者総合福祉センター

<概要>

高次脳機能障がい者生活支援事業での三重県でのシステムを別名、三重県モデルと呼称される。これは「高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステムチック（systematic）に包括的リハビリテーションを行うもの」であり、その実施する高次脳機能障害者包括的リハビリテーションネットワークを構築する。

#### (1) 拠点病院との連携

松阪中央総合病院

主に急性期リハを担当し、高次脳機能障害診断・外来による認知リハビリテーション及び三重県モデルを通過したケースのアフターフォローを実施している。

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、三重県モデルにおいては、入院による認知リハビリテーションを実施している。

#### (2) 三重県身体障害者総合福祉センター（以下「身障センター」）の役割

身障センターでは、臨床心理士を配置し、神経心理学的評価および認知リハビリテーション、職業リハビリテーションを実施している。また、平成16年度からは高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターを配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく分けて下記の3つになる。

県内の高次脳機能障がい者（児）からの総合相談窓口

医学・生活・社会・職業リハビリテーションを担当

障害者総合支援法の施行の下、高次脳機能障がい者は、自立訓練（機能訓練・生活訓練）就労移行支援、生活介護の利用が可能。

（総定員 入所40名 日中活動60名の通過型訓練施設）

啓発普及

- ・ 高次脳機能障害者地域支援セミナーの開催
- ・ 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会の開催支援  
（当事者・家族・支援者・医療職対象に日本損害保険協会助成）
- ・ 各関係機関（福祉、行政、学校等）を対象とした研修会の開催協力（随時対応）
- ・ 情報発信 身障センターホームページ <http://www.mie-reha.jp/>

#### (3) 医療機関との連携強化

松阪中央総合病院、藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの拠点病院との連携に加え、高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターによる訪問面接などを通じて、北中勢地域の急性期病院、回復期病院など、医療機関との連携も行っている。

### 2. 主な事業内容

#### (1) 相談支援体制連携調整委員会の開催

ア.高次脳機能障がい者生活支援事業が円滑且つ適正に運営されるために連携調整委員会が

設置されている。委員については、拠点病院医師、三重大学医学部医師、医療相談担当者、行政、労働機関関係者、県教育委員会、当事者団体代表などから構成されている。

<平成24年度 相談支援体制連携調整委員会 委員>

所 属・職 名	氏 名
藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 病院長	園田 茂(委員長)
三重大学医学部 看護学科 基礎看護学 教授	成田 有吾(副委員長)
三重大学医学部 脳神経外科 准教授	松島 聡(副委員長)
多度あやめ病院 院長	川喜田 昌彦
藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム リハビリテーション科 教授	前島 伸一郎
松阪中央総合病院 リハビリテーション科	田中 貴志
脳外傷友の会三重 TBI ネットワーク(当事者団体)代表	古謝 由美
三重県医療ソーシャルワーカー協会 相談役 皇學館大学 現代日本社会学部 教授	山路 克文
独立行政法人 高齢・障害求職者雇用支援機構 三重障害者職業センター 所長	東 昭宏
三重県教育委員会事務局 特別支援教育課 課長補佐	森井 博之
三重県障害者相談支援センター 所長	服部 秀二
三重県健康福祉部 障がい福祉課 課長	森下 宏也
三重県身体障害者総合福祉センター 所長	梶田 郁郎
三重県身体障害者総合福祉センター 診療チームマネージャー	神田 仁
学識経験者 藤田保健衛生大学 医療科学部リハビリテーション学科 教授	太田 喜久夫
学識経験者 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 保健科学部門 口腔保健学講座 地域医療福祉学分野 教授	白山 靖彦

(事務局)三重県障害者相談支援センター 地域支援課 課長	堀山 由実
(事務局)三重県健康福祉部 障害福祉室 副室長	田中 馨
(事務局)三重県身体障害者総合福祉センター 支援部 部長	溝端 輝広
(事務局)三重県身体障害者総合福祉センター 管理部管理課 課長	鈴木 真
(事務局)三重県身体障害者総合福祉センター 支援部 福祉支援課	田辺 佐知子
(事務局)三重県身体障害者総合福祉センター 支援部 福祉支援課	森 由美

<平成25年度 相談支援体制連携調整委員会 開催実績>

開催日(開催予定日)	場所	委員出席者数
平成25年7月19日	三重県身体障害者総合福祉センター	18名

平成26年3月7日

三重県身体障害者総合福祉センター

16名

内容は、高次脳機能障がい者生活支援事業における事業のあり方、障害者自立支援法の情報提供、相談・支援状況報告、研修会開催報告、各種研究などである。

## (2) 啓発・普及活動

### ア．高次脳機能障害者地域支援セミナー

本セミナーは、「高次脳機能障害」を多角的に研修するために、見識者による基調講演を主たる内容とした研修会である。対象は、医師・PT・OT・ST・MSWなどの医療関係者、市町福祉などの行政関係者、福祉施設職員及び当事者・家族である。

<平成25年度 高次脳機能障害者地域支援セミナー 開催状況>

「第25回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成26年2月2日(日) 13時～16時00分

四日市市総合会館 第一研修室

講師：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 保健科学部門 口腔保健学講座  
地域医療福祉学分野 教授 白山 靖彦氏

社会福祉法人富士厚生会 障害者生活支援センター くぬぎの里  
支援コーディネーター 坂口 英夫氏

特定非営利活動法人 高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」  
高次脳機能障害者支援センター 施設長 加藤 俊宏氏

参加者99名(定員100名)

### イ．高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会の開催支援

日本損害保険協会より助成を受け、脳外傷友の会三重TBINネットワークが、三重県高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会を実施している。家族等に対する相談支援の一環として、相談支援体制連携調整委員会のうち、若干名で委員を構成し(三重県高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会実行委員会)当事者・家族を対象としたリハビリテーション講習会開催の支援をした。また、講習会終了後には、当事者と学生の交流会を行い、当事者の発言の場、学生の今後の活動に生かす場となった。

<平成25年度 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会 開催実績>

日時	地域	開催場所	参加者数
平成25年9月16日	南勢地区(伊勢市)	皇學館大学	77名

### ウ．講演会・学習会での講演および発表実績

田辺 佐知子：平成25年5月20日 「津市内 作業所」

「高次脳機能障がいとは」 15名

田辺 佐知子：平成25年8月10日 「愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関」

「高次脳機能障害 三重県モデルに関する報告・シンポジウム」 329名

田辺 佐知子：平成25年8月20日 「志摩市社会福祉協議会」

「高次脳機能障害について」 15名

田辺 佐知子：平成25年8月31日 「松阪市福祉事務所」

「高次脳機能障がいの支援について」 28名

田辺 佐知子：平成25年9月3日 「みえ犯罪被害者総合支援センター」  
「高次脳機能障害について」 9名  
田辺 佐知子：平成25年12月11日 「三重障害者職業センター」  
「高次脳機能障害者支援 三重県モデル」 20名  
田辺 佐知子：平成25年12月23日 「三重もやもや病の患者と家族の会」  
「高次脳機能障がい者生活支援事業」 25名  
田辺 佐知子：平成25年12月24日 「紀北地域障がい者総合相談支援センター」  
「高次脳機能障がい者の支援について」 21名  
田辺 佐知子：平成26年2月17日 「三重県立四日市中央工業高等学校」  
「高次脳機能障害に対する理解について」 15名

## エ．その他

- ・高次脳機能障害者の地域生活支援に関する研究 東海ブロック連絡協議会  
平成26年2月2日 四日市市総合会館（三重県四日市市）

### (3) 平成25年度相談支援状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

相談件数および相談実数 相談件数 1169件（電話問い合わせを除く）  
新規相談者実数 67名（内、8名が当センターを利用）  
新規相談者（N=67） 年齢構成 平均年齢：41.0歳 男性：52名、女性：15名

新規相談者における原因疾患の内訳

外傷性脳損傷21名（脳挫傷19名、びまん性軸索損傷2名）脳血管障害32名、  
脳腫瘍2名、低酸素脳症3名、脳炎2名、多発性硬化症1名、その他（不明も含む）4名  
居住地 三重県内の市町のうち、12市/14市、7町/15町から相談依頼あり。  
県外からは、1県相談依頼あり。

### (4) 身障センター訓練終了後の帰結先（平成13年4月～平成26年3月31日）

訓練終了全ケース数 265名  
性別 男性222名 女性43名  
平均年齢 42.0歳  
身障手帳 有179名 無86名  
訓練期間 平均日数433.4日（支援事業前からの利用者も含む）  
訓練終了時の一般就労・復学者86名（32.4%）  
訓練終了時の状況（平成26年3月31日時点：カッコ内は、今年度人数）

雇用就労・就学	86名	32.4%
新規就労	32名	(4名)
復職	48名	(3名)
新規就学	4名	(0名)
復学	2名	(0名)
福祉就労	58名	22.0%
身障授産	30名	(1名)
精神障害授産	15名	(5名)
小規模作業所	13名	(0名)

現行サービスでは、就労継続支援B型事業所

福祉サービス	43名	16.2%	
	身障デイサービス	25名	(1名) 生活介護等
	療護施設	18名	(5名) 施設入所支援
在宅生活・その他(就労待機・死去・再訓練を含む)	78名	29.4%	